

意見公募の結果

- 意見公募期間：9月9日から10月31日まで
- 総件数 28件（7社）
- 代表的なご意見と回答

主なご意見

回答

5年の業務の内訳で初年度に対象建物50棟のすべての基本設計となっているものをできるだけ均等に分散することを希望します。

実施設計を5年間で平準化して実施する計画であり、そのスケジュールを踏まえ、基本設計も平準化して実施する考えです。

建築・設備設計業務においては、基本設計と実施設計は、主旨統一および効率性、設計責任等の観点から同一の設計事務所が実施することが、発注者にも受注者にも望ましいと思います。

競争性を確保するため2期目以降は総合評価落札方式の標準型を基本として発注する予定です。1期目の基本設計と2期目以降の実施設計は設計総合調整業務により主旨統一を図ることとしています。

業務を年度ごとに分割することで参加企業は増加するものと考えます。

ご意見ありがとうございました。

分割後の発注イメージの期ごとに、前年度業務とのラップ期間は、6か月は確保することで、隣接工区との調整を確実に実施できるように工程を設定して頂きたい。

ご意見を踏まえて発注予定を検討します。

①業務（その1）の開始時期は、半年ほど後送りした方がよいと思われます。

ご意見を踏まえて業務スケジュールを計画します。

従来型での発注が難しければ、②業務（その1）実施設計の対象建物数を倍以上に増やして、利益を見込める規模に変更していただきたいです。

実施設計の平準化を念頭に分割化を計画しておりますので、ご理解ください。そのうえで、ご意見を踏まえ、②業務の実施設計の対象棟数のバランスを考慮した分割化数を検討します。

1期目（①業務+②業務（その1））受注者は、2期目以降受注コンサルに対して「設計総合調整業務」を実施することになっていることから、②業務（その2）～②業務（その4）を受注者に対する調整業務の負担（責任分担、手戻り等への対応）が膨大になることが懸念（その分の充分な業務費が必要）されます。1期目の受注者のメリットが小さく、1期目の参加者が減る可能性もあると考えます。また、発注部局においても契約先も増え調整作業の煩雑化、ミスに対するリスク増加、負荷の増加が予想されます。

「設計総合調整業務」における1期目受注者と2期目以降の受注者の責任区分や業務分担を明確化すると共に、適切な費用の計上など、1期目の業務負担の軽減、業務明確化を検討します。

地元業者の受注機会が増えますので歓迎いたします。しかしながら、設計業務及び技術協力反映業務とも総合評価方式として複数の業務が計画され、同じ基地・駐屯地の中でロットごとに異なった複数のテーマが設定されたとした場合には、発注者側も参加業者側も負担になると思われますので、テーマを同一として一括審査方式を取り入れていただくとか、簡易型で計画されるなど、柔軟な緩和措置をご検討いただければと思います。

ご意見を踏まえつつ、業務規模、内容に応じて、競争性、品質の確保を考慮した発注方法やテーマの設定に努めます。

今後の対応

- 頂いたご意見を踏まえながら、今後発注するECI設計については、1期目（①業務及び②業務（その1））と2期目以降の②業務を分割して計画する予定。